

福岡県立図書館

令和3年度運営状況に関する評価結果

当館が策定している基本方針及び基本計画を踏まえ、令和3年度重点的に取り組んだ事項と関連する指標についての評価を実施し、その結果に基づき運営の改善を図っています。

基本方針

福岡県立図書館の使命を実現するため、公共図書館をはじめとする県内の各種図書館と連携・協力し、図書館員の専門的能力を生かしながら、資料や情報を収集・保存・提供するとともに、積極的かつ多彩な情報発信を実践します。

目標1：「生涯にわたる学びの支援と情報発信」

幅広く多様な資料・情報を収集・保存・提供し、あわせて多彩な情報発信を行うことにより、県民の学びや課題解決を支援します。

目標2：「子どもの学びと読書へのいざない」

子どもの学びと読書活動の推進拠点として、子どもの豊かで多様な学びを支え、読書の喜びを伝えるお手伝いをします。

目標3：「ふくおかの文化を育む」

福岡県に関する資料・情報を収集・保存・利活用するため、紙資料の収集・保存とともに、デジタルアーカイブの充実を図ることにより、地域文化の継承・発展を支援します。

目標4：「バリアフリーの実現」

県民が、等しく学び、読書に親しむことができる環境を整備することにより、心の豊かさと生きる力を育むお手伝いをします。

目標5：「図書館サービスの推進拠点」

公共・学校・大学・専門図書館やボランティア団体をはじめとする県内の読書関連団体と連携・協力し、電子図書館を含む県全体の図書館サービス向上を目指します。

重点取組の評価基準

評価	内容
☆	計画どおりに実施でき、取組や活動に大きな成果がみられた
◎	計画どおりに実施でき、一定の成果があった
○	改善や課題はあるものの、おおむね計画どおり実施できた
△	取組や活動が不十分であり、計画どおり実施できなかった

指標の評価基準

評価	目標に対する達成率	内容
☆	110%以上	目標が十分に達成された
◎	100%以上 110%未満	目標が達成された
○	90%以上 100%未満	目標がある程度達成された
△	90%未満	目標の達成が十分ではない

目標 1 : 「生涯にわたる学びの支援と情報発信」

幅広く多様な資料・情報を収集・保存・提供し、あわせて多彩な情報発信を行うことにより、県民の学びや課題解決を支援します。

- (1) 専門書・参考図書を中心に紙資料を網羅的に収集するとともに、各種データベースや電子書籍を含むデジタル資料の充実に努め、県民の学び、課題解決に役立つ蔵書構築を目指します。
- (2) 調べ方の案内やレファレンス事例等の蓄積・発信により、国内及び国外の調査研究のための情報共有を促進します。
- (3) 国や県の関係機関等と連携・協力し、県民の学びに役立つ展示や講演会などの共同企画を実践します。
- (4) ホームページやSNS・動画配信等の活用により、多彩で効果的な情報発信を実践します。

1. 3年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
(1) 県民の興味・関心に沿った資料の収集と多様な利用方法の提供促進 ① 重点収集分野のうち「人権」「労働」「虐待・DV」など社会生活で直面する課題をテーマとした「社会的課題」分野を重点的に収集します。 ② 各種データベースの活用を促進し、図書館利用者の利便性の向上を図ります。 ③ 新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言「新しい生活様式」を踏まえ、非来館で図書館資料が利用できる環境を充実させるため、電子書籍の充実に努めます。	① 社会生活における身近な課題をテーマとした資料を中心に 1,016 冊を収集した。 ② データベースの閲覧や印刷には来館する必要があり、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館により利用数は減少したが、電話やメールで可能な限り手がかりを聞き取り、利用者に代わって情報検索を行い、結果を伝達することができた。 ③ 令和 2 年度開始導入した電子書籍サービス「KinoDen」に 4,237 タイトルを追加した。また、令和 4 年 1 月には新しい電子書籍サービス「Librari-E&TRC-DL」を開始し、6,987 タイトルを提供した。	☆
(2) 県民の学び、課題解決への支援とデータの共有・活用 ① 様々な図書館資料を活用し、レファレンスサービスの充実に取り組みます。 ② レファレンス協同データベースへ事例を積極的に登録し、当館の蓄積した情報が広く活用されるよう努めます。	① 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休館中においても、電話や電子メールによるサービスに努め、前年度 4% 増の 43,367 件の利用があった。 ② レファレンス協同データベースに 14 件のデータを登録した。また既に登録したデータについて 331,687 件の利用実績があった。	☆
(3) 事業の展示などの充実を図り、県民の関心が高まるような展示・講演会を企画します。	「福岡県置県 150 周年」に関する資料の展示、「SDGS」をテーマにした映画資料の展示・PR などを行った。また、放送大学とのコラボ公開講演会を YouTube での動画配信により開催した。	◎
(4) ホームページやSNSの内容を充実させ、より多くの情報を発信します。	当館実施事業について、ホームページやツイッターへの掲載による広報に努めた。また、子ども図書館を紹介する動画を当館公式 YouTube チャンネルに掲載し図書館の PR に努めた。	◎

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	3年度実績	達成率	評価
購入予算(一般資料分)に占める専門書・参考図書予算の割合	50%	63%	126%	☆
電子書籍の利用数	5,000 冊	22,301 冊	446%	☆
レファレンス件数(ふくおか資料室・子ども図書館を除く)	42,000 件	43,367 件	103%	◎
レファレンス協同データベースの利用数	260,000 件	331,687 件	128%	☆
パスファインダーの作成・更新件数(子ども図書館を含む)	20 件	23 件	115%	☆
特集展示の回数	33 回	39 回	118%	☆
展示や講演会などの共同企画に関する満足度	89%	100%	112%	☆
HPトップページ アクセス数	700,000 回	785,502 回	112%	☆
ツイッター ツイートインプレッション(ツイートを見た数)	960,000 回	1,024,049 回	106%	◎

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 重点取組である「社会的課題」分野の資料収集について概ね年度計画どおり実施できた。
- ・ コロナ禍により非対面型サービスが求められる状況や、紙による読書が困難な利用者、不読率が上昇すると言われる中高生に対し読書機会を提供するためにも電子書籍利用の定着を目指す。そのため、コンテンツの継続的な増加と、利用数増に繋がるような広報のあり方などが課題である。
- ・ レファレンスサービスは、紙資料のほか電子書籍、契約データベース等の多方面からのアプローチを行い、利用者の課題解決に努めた。昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館があったものの、非来館サービスを継続できたことにより、件数は前年度よりも増加した。
しかし、長期的には近隣の大学の移転完了による学生の利用減など、来館者減の要素を含んでおり、今後の図書館サービスとして、物理的環境の影響を受けにくい非来館サービスにシフトしていくことを検討する必要がある。
- ・ レファレンス協同データベースへ当館から登録したレファレンス事例について 331,687 件の利用があり、運営する国立国会図書館からお礼状を受けたほか、優良事例として紹介される等全国レベルの評価を得ている。
- ・ パスファインダーは臨時休館期間等を活用し、既存分の内容更新のほか、WEB 上での見やすさなどを考慮した大幅リニューアルを行った。次年度は新規テーマについて作成に取り組む。
- ・ 講演会については、重点収集分野とリンクした県民の関心が高いと思われるテーマを選定し実施したい。
- ・ ホームページのトップページアクセス数及びツイッターを見た数が年々増加しており、引き続き事業広報のツールとして積極的に活用する。

目標 2 : 「子どもの学びと読書へのいざない」

子どもの学びと読書活動の推進拠点として、子どもの豊かで多様な学びを支え、読書の喜びを伝えるお手伝いをします。

- (1) 子どもの本を網羅的に収集・保存・提供するとともに、子どもが読書に親しむための取組や技術の充実を図り、子どもの読書活動を推進します。
- (2) 学校や県学校図書館協議会と連携・協力し、子どもの探求的な学習や読書活動を支援します。
- (3) 読書ボランティアの養成や活動を支援し、市町村の子どもの読書活動推進に資するよう努めます。

1. 3年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
(1) 子ども向け電子書籍の導入を検討します。おはなし会や1日子ども図書館員体験、青少年読書推進講座を開催します。	子どもや中高校生を対象に新しい電子書籍サービス「Librari-E&TRC-DL」を開始し、5,487 タイトルを提供した。 また、おはなし会を定期的を実施するとともに、学校図書館等青少年の読書推進に携わる人に向けた研修を行った。	☆
(2) パスファインダーの作成や更新を行い、学校図書館協議会と連携して各学校での利用促進を図ります。	パスファインダーは、子ども用 6 件を新規作成し、青少年用 3 件を更新した。館内で配布するほか、ホームページ上でPRを行った。	◎
(3) 「子どもと読書」研修会の専門講座などを実施します。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施回数は減らしたが、本の選び方や絵本の読み聞かせの仕方など基礎的な知識や技術が学べるようにした。	◎

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	3年度実績	達成率	評価
定例おはなし会参加者数	1,000 人	798 人	80%	△
子ども図書館レファレンス件数	5,500 件	4,447 件	81%	△
子ども図書館・青少年コーナー特集展示等リスト作成回数	15 回	52 回	347%	☆
子ども情報ルームの学習目的利用数	600 件	379 件	63%	△
子ども読書に関するボランティア研修会参加者数	200 人	139 人	70%	△

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 定例おはなし会参加者数、子ども図書館レファレンス件数、子ども情報ルームの学習目的利用数、ボランティア研修会参加者数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館や参加者数・座席数の制限などにより、目標を達成できなかった。
- ・ 今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、子どもの学びや読書活動を推進するため、自宅での学習や読書に役立つリンク集の更新など、非来館型サービスの情報提供も行う必要がある。

目標3：「ふくおかの文化を育む」

福岡県に関する資料・情報を収集・保存・利活用するため、紙資料の収集・保存とともに、デジタルアーカイブの充実を図ることにより、地域文化の継承・発展を支援します。

- (1) 福岡県に関する紙資料の収集・保存と並行して、デジタル化を主とする資料の媒体変換を行い、市町村と協力して県全体としてのデジタルアーカイブを構築することにより、福岡県独自の資料・情報の利活用と情報発信を推進します。
- (2) 福岡県に関するレファレンス・ツールの作成とレファレンス事例の蓄積により、国内及び国外の福岡県に関する調査・研究を促進します。
- (3) 地域の出版社や書店と連携・協力し、福岡県に関する出版物等を収集・保存し、利活用のための情報発信を行うことにより、地域文化の継承・発展を支援します。

1. 3年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
(1) 当館が所蔵する資料をデジタル化し、当館HPに掲載します。また、当館が所蔵すべき資料のデジタル化を推進します。	昭和28年に西日本を襲った豪雨に関する記録資料『西日本大水害写真集』他全19点、2018年に百周年を迎えた当館が記念に作成した『福岡県立図書館開館100周年記念誌』のほか映像資料等全4点をデジタルライブラリに公開した。	☆
(2) 郷土資料に関するレファレンス事例を当館HP及び国立国会図書館運営のレファレンス協同データベースに追加掲載します。また、地域に関する人物・雑誌記事のデータベースの充実を図ります。	郷土資料に関するレファレンス質問事例30件を当館のホームページと国立国会図書館レファレンス協同データベースに追加登録した。また、3,185件の雑誌記事と44件の人物情報を登録した。	◎
(3) 地域の出版社を紹介するHPの充実を図ります。令和2年度末にリニューアルしたふくおか資料室のホームページに「福岡の出版社」のページを新設し、13の出版社の紹介を掲載しています。今年度は、現在未掲載の出版社に呼びかけ、掲載件数の充実を図ります。	「福岡の出版社」のページに新たに「行舟文化」「図書出版木星舎」「春吉書房」「公益社団法人福岡県人権研究所」4件を追加した。	☆

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	3年度実績	達成率	評価
ふくおか資料室の質や量についての利用者満足度	94%	98%	104%	◎
デジタルライブラリへのアクセス数	3,200件	12,475件	390%	☆
ふくおか資料室でのレファレンス質問件数	4,400件	3,323件	76%	△
国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録件数	30件	30件	100%	◎
ふくおか資料室に掲載の出版社のページへのアクセス件数	500件	1,451件	290%	☆

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 重点取組に関しては概ね計画どおりに実施できた。
- ・ レファレンス質問件数の減少については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館により来館者が減少したことによる。今後、来館非来館を問わず利用者増加のため、当館サービスの広報を積極的に行う必要がある。また、ホームページやデジタルライブラリの充実を図り郷土資料に触れる機会を増やすことで利用者増加につなげたい。

目標4：「バリアフリーの実現」

県民が、等しく学び、読書に親しむことができる環境を整備することにより、心の豊かさと生きる力を育むお手伝いをします。

- (1)「障害者差別解消法」、「読書バリアフリー法」などに適切に対応したサービスや設備の改善を行うことにより、誰もが使いやすい図書館を目指します。
- (2)読書に困難がある人へのサービスとして、大活字本やデージー及びマルチメディアデージー図書・LLブック・音声読み上げ機能付電子書籍等を収集・提供し、情報アクセスの向上に努めます。
- (3)さまざまな理由による情報格差を解消するため、先進的な情報技術の活用も視野に入れ、利用案内や検索支援等、県民の情報リテラシー（情報の利活用能力）向上のための情報提供を行います。
- (4)福岡県で生活する外国人へのサービスとして、また、県民との相互理解を深めるため、日本を紹介する資料や外国語資料の充実に努めます。

1. 3年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
(1)障がいのある人の図書館利用に対し、適切な合理的配慮を行えるよう職員の資質向上に努めます。	バリアフリーサービスに関する研修への積極的な参加、これからバリアフリーサービスを始める図書館に向けた手引きの作成、県内図書館への公開や職員研修を通して資質向上を図った。	◎
(2)読書に困難がある人への読書機会の充実と情報発信 ①読書に困難がある人の読書機会の充実のため、多様なバリアフリー資料の収集に努めます。 ②ボランティア活動を支援し、デージー図書の製作に取り組むほか、広く情報発信し、製作資料の活用に取り組みます。	①紙の本による読書に困難がある人向けの資料として、大活字本 97 タイトル、LLブック 6 タイトル、デージー図書 137 タイトルを収集したほか、電子書籍においてオーディオブックや音声読み上げ機能付コンテンツを 5,169 タイトルを収集した。 ②当館の録音図書製作ボランティアと連携し、137 タイトルのデージー図書の受入を行った。また、新刊や図書館案内等の情報発信に努め、国立国会図書館へデージー図書データを 180 タイトルを追加登録した。さらに、他館と協力してバリアフリー読書の体験会を開催した。	☆
(3)障がいの有無に関わらず、ホームページ検索などによる情報をより多くの利用者に分かりやすく発信できるよう努めます。	障がい者サービスの充実を図るため、ホームページに音声ブラウザ対応ページを作成した。	○
(4)本を活用した外国人への読書機会の提供と日本語や文化に対する理解の支援 ①外国語で書かれた資料の収集に努めます。特に今年度は、英語で書かれた資料の充実に図ります。 ②日本語習得に役立つ電子書籍の充実に努めます。	①英語で書かれた本や外国人に日本文化等を紹介・解説した本を中心に、72 冊を収集した。 ②英語を中心に多言語対応コンテンツのほか、日本語以外を母国語とする人向けの日本語習得用コンテンツ 265 タイトルを収集した。	◎

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	3年度実績	達成率	評価
読書に困難がある人向け図書の受入タイトル数 (電子書籍以外)	200 タイトル	240 タイトル	120%	☆
読書に困難がある人向けコンテンツの提供数(電子書籍)	130 タイトル	5,169 タイトル	3,976%	☆
録音図書貸出点数(個人団体全件)	2,400 冊	2,283 冊	95%	○
国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス利用数(当館登録分)	20,000 件	30,557 件	153%	☆
検索支援のページ(HP)へのアクセス数 (調べものをするページのアクセス数)	2,700 回	4,017 回	149%	☆
障がい者サービスのページ(HP)へのアクセス数	400 回	-	-	-
外国人向け及び外国語図書の受入数	200 タイトル	72 タイトル	36%	△
外国人向け及び外国語コンテンツの提供数(電子書籍)	5 タイトル	265 タイトル	530%	☆

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 読書に困難がある人向けの書籍数は少ないため、出版情報の収集に努め計画的に収集した。
- ・ 電子書籍の選書時にオーディオブックや読み上げ機能対応のコンテンツに留意しながら重点的に収集した。
- ・ 国会図書館へのデジターデータ登録数の増加に伴い利用数も増加傾向にある。
- ・ 障がい者サービスのページ(HP)へのアクセス数については、令和3年度ページの更新の際、旧ページからの連携不具合によりアクセス数が把握できなかったため評価対象外とした。
- ・ 外国人向け及び外国語図書の収集については、読書に困難がある人向け資料と同様に出版情報や入手の確保が難しいなか、可能な限り収集に努めた。一方、電子書籍は英語をはじめ主要な言語資料が紙の書籍よりも数が多いため、補完を意識した収集も行った。今後、外国語資料については電子書籍にシフトしていくことを検討したい。

目標 5 : 「図書館サービスの推進拠点」

公共・学校・大学・専門図書館やボランティア団体をはじめとする県内の読書関連団体と連携・協力し、電子図書館を含む県全体の図書館サービス向上を目指します。

- (1) 研修事業を充実するとともに、図書館運営等に関する情報提供や各種相談に対応し、新たなサービス等についての調査研究を行うことにより、県内公共図書館等職員の育成支援と技術の継承を図ります。
- (2) 資料配送業務を含む「福岡県図書館情報ネットワーク」の運営により、相互貸借や共同研修の企画など、図書館の館種を越えた連携・協力を推進します。
また、電子書籍の本格的導入により、非来館型サービスを展開し、ネットワークの充実を図ります。
- (3) 図書館ボランティアと連携し、ボランティアの育成を支援することにより、官民の垣根を越えた図書館サービスの充実を目指します。

1. 3年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
(1) 市町村立図書館等の職員に対し、基本研修・集合研修を実施し、資質の向上に努めます。	コロナ禍の影響を受け、集合研修を実施できない研修会については、一部の研修を除き、動画配信やオンライン対応で実施した。	○
(2) 福岡県図書館情報ネットワークの運営により、市町村立図書館のみならず学校等との相互貸借が円滑に進むよう努めます。	福岡県図書館情報ネットワークについては、特に問題等なく、運用することができた。また、市町村立図書館へアンケート調査により、ネットワーク運営上の改善を図ることができた。	○
(3) ボランティア養成講座を実施し、人材の育成を図ります。	音訳ボランティアの資質向上を図る研修会を開催し、会場参加のほか、後日動画配信を行った。 ボランティア養成講座については、新型コロナウイルス感染拡大防止により中止となった。	○

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	3年度実績	達成率	評価
図書館職員等対象研修参加者満足度	100%	100%	100%	○
県内公共図書館等への職員派遣(講師・委員・相談等)回数	40回	37回	93%	○
資料配送業務の取り扱いコンテナ数	6,200個	6,553個	105%	◎
「福岡県図書館情報ネットワーク」の参加館数	68館	68館	100%	◎
市町村図書館等が利用した横断検索数	166,000回	118,557回	71%	△
ボランティア向け研修参加者数(点録協等他室も含む)	200人	223人	112%	☆

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 市町村立図書館等の職員研修の満足度については、100%と高い評価を得ることができた。
- ・ 市町村図書館等が利用した横断検索数の減小については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館の影響により来館者が減少したことによるものである。
- ・ 音訳ボランティアの資質向上を図る研修会は、当日の会場参加のほか、後日配信した動画は210回の視聴回数があった。

用語の説明

レファレンス（サービス）（1 頁、2 頁、3 頁、4 頁）

利用者が情報あるいは資料について図書館員に尋ねる質問。来館の利用者からの質問だけでなく、手紙、ファックスなどの文書による質問、電話、電子メールなどの通信手段を利用した質問もある。図書館員がこの種のレファレンス質問を受けて回答することは、レファレンスサービスの中心的な業務である。

パスファインダー（2 頁、3 頁）

あるテーマについて調べるときに役立つ資料（図書・雑誌・データベース・ウェブサイト）や情報の探し方を簡単に紹介したもの。用紙での提供やホームページ上に公開している。

レファレンス協同データベース（2 頁、4 頁）

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースである。

定例おはなし会（3 頁）

当館が行っている「赤ちゃんのおはなし会」「小さな子のおはなし会」「小学生のおはなし会」の3つをいう。

〔赤ちゃんのおはなし会〕

水曜日 午前11時から

奇数週（第1・3・5週）は0歳児向け、偶数週（第2・4週）は1・2歳児向けの内容。

わらべうた・手遊びなどを、赤ちゃんと一緒に楽しむプログラム。

〔小さな子のおはなし会〕

土曜日（第1・3・5週） 午後2時から

布の絵本、絵本、紙芝居、おはなしなどのプログラム。

〔小学生のおはなし会〕

毎週 土曜日（第2・4週） 午後2時から

ストーリーテリング、絵本などのプログラム。

デジタルアーカイブ（4 頁）

有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し、劣化なく永久保存するとともに、ネットワークなどを用いて提供すること。

大活字本（5 頁）

弱視者用に大きな活字で印刷された図書。大型活字本ともいう。実際には、印刷方式にかかわらず、文字の大きな図書の総称としても用いられる。高齢者の利用もある。

デイジー（5 頁）

マルチメディアデイジー（5 頁）

デイジー(DAISY)とは、Digital Accessible Information System の略称。

活字による読書が困難な人々のための国際的なデジタル録音資料制作システム。近年は音声だけでなく、画像やテキストデータとともにインターネットでも提供できるマルチメディア対応型記録媒体となっている。DAISY 資料は、カセットテープに比べて、検索機能や収録時間、音質などの点できわめて利便性に富む。再生には専用プレイヤーまたは編集用ソフトウェアが必要。2009(平成 21)年の「著作権法」改正により、公共図書館においても著作権者に無許諾で DAISY 資料を制作できるようになった。

障害者差別解消法（5 頁）

《「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の通称》障害者基本法の基本理念に沿って、障がいを理由とする差別を解消するための措置などについて定めた法律。障がいのある人に対する不当な差別的取扱いを禁止し、行政機関や事業者に対して合理的配慮の提供を求めている。平成 28 年(2016 年)4 月施行。

LLブック（5 頁）

LL はスウェーデン語で「やさしく読みやすい」を意味する言葉の略。知的障がいや学習障がいなどがある人々も楽しめるよう、内容を理解する助けとしてイラストや写真、記号を多く添えた本。「えるえるぶっく」という。

福岡県図書館情報ネットワーク（7 頁）

県内の公共図書館及び図書室で「相互貸借」のネットワークを構築しており、自館に所蔵していない資料を他館から借りることが可能である。また、県内公共図書館の蔵書の横断検索システムと連動し、横断検索の結果、所蔵館に対してインターネットを介しての貸出申込みや回答が可能である。

【参考文献等】(順不同)

- ・図書館情報学用語辞典 第4版
- ・国際交流基金国際センター図書館のしごと
- ・国立国会図書館データベースホームページ
- ・小学館デジタル大辞泉